

# はこぎま

箱崎環境対策協議会

創刊号

橋本区日本橋  
8の34町  
箱崎中

電話 667-5667

箱崎町の町会員の皆様、あけましておめでとうございませう。

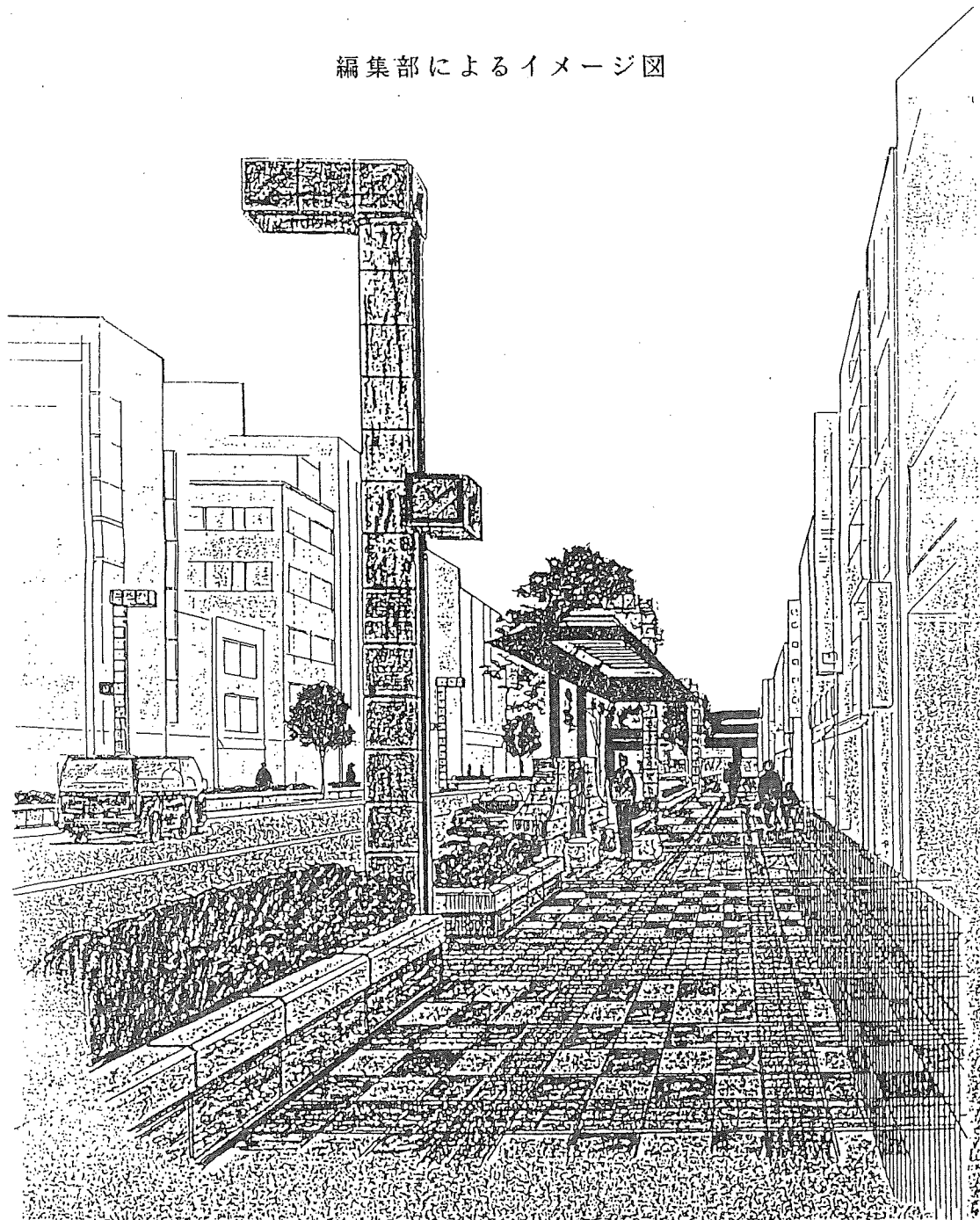
昭和六十三年の新春を迎え、皆様のご健勝とご繁栄を心から御祈り申し上げます。幸い箱崎環境対策協議会も着実に進展しておりますことは、町会会員の皆様のご理解とご協力のたまものと心から御礼申し上げます。しかしながら町会を取り巻く社会経済情勢は依然として厳しいものがあり、予断を許さない状況にあります。箱崎環境対策協議会の機能を十分に発揮しながら、行政機関と協力して「魅力ある町づくり」の実現のため全力を傾注する所存でございます。住民の皆様のご理解と一層のご支援をお願い申し上げます。

箱崎環境対策協議会

会長 寺嶋信一  
副会長 宝田陽一  
副会長 川田利雄

我が町「はこぎま」機関紙発行に際し、一言ご挨拶を申し上げます。現在の箱崎町(箱北、箱二、三、箱四)各町会とはご覧の通り、不規則な町並みの様相を呈しております。

編集部によるイメージ図



水天宮前通りより首都高速道路(シティーターミナル下)をのぞむ。

箱崎環境対策協議会の発足も、本紙に於てその経緯を述べてありますので、何卒ご熟読頂き、私達の趣旨をご理解頂きたいと思っております。

編集委員一同が、手造りの温かい且、活力ある機関紙として発行すべく、努力致し第一号を発行する事となりました。

町会員各位及び、新しく箱崎町に居住されました方々にも、充分ご理解を頂きたいと思っております。

新しい居住者の方々とは、以前から居住されて居られる方々とは、とかく交流が少なく他人のような違和感もあります。編集委員もそのへんの壁を取り除くべく素人なりの紙面ですが熱意をもって一味違った記事で町の活性化を皆様にアツピールする努力を買って頂き、今後のご協力を要望致したいと思っております。

町を愛し、環境をより良くし、住み良い町にする事は住んでいる皆様の努力に、外ならない問題と思っております。

この機関紙発行を機会に、ご遠慮無くご意見、ご希望、苦言を提言して頂き、この機関紙が精一杯の橋渡しの一助となれば幸いです。創刊号を機に今後随時 二号、三号と発行して頂く様、役員一同推進して行く所存でございますので皆様の絶大なるご理解、ご援助を御願います次第でございます。

編集委員一同

### 大祭がとりもつた箱崎三町会の団結

昭和五十四年十月に完成した高速度道路九号線に依り、夕日の映えた土州橋(現在タミミナル場所)は埋まり、箱崎町は二分割されてしまいました。

その分割により箱崎町の環境悪化に拍車を掛けた事実は否定できません。隅田川に面した下町情緒豊かな人情と、町並は時代の波に押し流され、オフィスビルが建つ様になり箱崎の人情も家並も隠されてしまったのが現状です。

そんな箱崎の片隅に、昭和五十七年頃より地下鉄半蔵門線の延長計画が発表され、箱崎地区に「地下鉄出入口を」との要望書を中央区に提出致しました。

この地下鉄出入口問題から端を発し、町内に沢山の問題が提起されて来ましたが、町内に町内のなかで占有面積の広い三井倉庫跡地、郵船倉庫跡地の再開発、土地高騰により、古い住民の減少と、新しいマンションの住民増加との関わり合い、大川端作戦による町の変化等、沢山の問題を抱える現状となりました。

昭和六十一年深川八幡宮大祭を契機に、町の将来を真剣に考える必然性から、三町会連合の機運が芽生えて来ました。

三ヶ町合同の連合渡御、子供神輿、山車、盆踊り大会等の運営、実行により三ヶ町合同の団結は輝やかしい一ページとなりました。

相前後致しますが、昭和六十一年四月に初めて環境を良くするための会が三ヶ町合同で開催、これが現在の箱崎環境対策協議会の組織団体としての発足です。

何分にも当初はスムーズに事が運ばず住民の方々にも趣旨徹底出来ず、協議会の認識も薄かった事と思えます。

時には右往左往して検討事項もまとまらないう事態も多々ありました。

しかし会合を重ね、検討して行く内に只単に地下鉄出入口の問題のみに固執せず、今後の箱崎の町をもうすこし広い視野にたつて問題を考え検討する事が急務な事ではなからうか

、自分達の住む町を、少しでも住み良い環境にしていくために「箱崎環境対策協議会」は住民の方々の自発的な問題意識からこうして生まれ来て来たと思えます。

### 行政機関との太いパイパイ役割を果たす

昭和六十二年四月区議選、区長選に入り区とのコンタクトも中断し、空白の数ヶ月が過ぎました。

同年七月には、新区長矢田美英氏、建築部長小川氏、地域整備課長吉田氏、三浦氏、区よりのコンサルタント参事落合氏の出席を頂き現在の箱崎町の抱えている諸問題、今後の方針等を質疑応答する会合を開催しましたが、時間的制約もあった関係上、十分な結果は

得られませんでした。少なくとも区長は勿論の事、出席者諸氏には箱崎の現況を顔合せのみに留まらず、強い印象を植付た事は大きな成果であったと思えます。

この協議会に対し、区議会議員の山森静一

氏の力強い助言に依り、区としての助成金第一号としてこの協議会に予算化された事実は非常に責任のある協議会として運営しているかなければならないと自覚しております。

今後の協議会の運営もまさに正念場を迎える事となるだけに、この機刊紙「はこぎき」発刊も一つの実行の現れと受け止めて頂きましたと思えます。

昭和六十二年九月に協議会内に役員会を設立し規約を定め、委員も選出致し、書類を区の関係機関に提出致しました。

この結果役員会に於いて検討課題を絞った上、一、二、の問題を協議会で改めて審議決定する組織化した機構としました。

十一月に後述してあります人形町モールの街の延長を提案、蛸殻町四町会会長に趣旨説明を致し快く協力して頂く事となりました事は改めて近隣町会の深いご理解の賜と感謝致している次第です。

十一月六日蛸殻町三町会長 三之部連合町会長の立見栄次郎氏、箱崎三町会会長、大木事務局長の諸氏が山森区議会議員の仲介の労にて区の庁議室において、人形町モールの街を箱崎町迄延長して頂くべく要望書を立見日本橋三之部連合町会長より矢田区長に手渡されました。区側より助役、総務、企画、土木、建築の各部長が同席され、確かな感触を得た事を書き添えます。

この様にして一つ一つ着実に事を成就させるには、どうしても区議会の方の力が必要です。

環境対策協議会は皆様と行政機関とのパイプ役として懸命に役割を果たすべく頑張っております。どうか御理解ください。

### 先ずは主幹道路の美化緑化

現在までの会合で「箱崎環境対策協議会」としての区に對する要望を集約すると、一、人形町モールの街の延長を水天宮一蛸殻町一箱崎町へと、町にふさわしい歩道、街路樹、街路灯を設け、特に薄暗いタミミナル下を世界の表玄関にマッチした明るい近代的な装いにする。

二、隅田川河岸「大川端作戦と合せ」に、水上バス乗降場及び、モダン化した憩いの場を大々的に取入れ、人の流れを寸断することのない、又箱崎地区に人の流れを導入する様な川岸とする事。

三、ほかの地区に設立されている区民館はあるが箱崎地区としては車公害、空気汚染、騒音のみが残されております。

この際、御年寄の方が何時でも利用できる場所、そして冠婚葬祭にも使える場所として公民館的な建物をなんらかの形で実現してもらいたい。

又、今後ますます増えると思われるマンションにお住まいの方々と昔からの住民である町会員との意志の疎通等、様々な問題を提起して頂き、近代的な情報都市と、伝統ある下町情緒を併せ持った「我が町箱崎」を実現すべく、全力で取り組んで行く覚悟で居りますのでご理解、ご協力を御願ひ申し上げます。